

# 早期大腸癌における内視鏡治療後の水平断端 HMX/HM1

## 症例の検討

## 情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

### 研究目的

大腸癌診療ガイドラインでは、早期大腸癌の内視鏡的切除において、分割切除、水平断端陽性の場合、局所遺残再発のリスクがあるため内視鏡的サーベイランスが推奨されるが、水平断端 HMX/HM1 症例の局所遺残再発率、再発時期、転帰に関する報告は少ないのが現状です。

これらが明確になることで水平断端陽性時の内視鏡検査の回数やフォロー間隔を適正なものにすることが可能と考えます。適正な検査時期を知ることにより無駄な検査を省くことが可能となり患者負担の軽減に繋がると考えます。また適切な時期に検査を行うことで再発予防に寄与すると考えます。

### 研究期間

2023年5月1日から2026年4月30日（3年間）の予定

### 研究の対象となる方

2010年1月から2023年2月の間に、上皮性大腸腫瘍に対し内視鏡的切除(ESD/EMR)を行い、pTis-T1a、HM:Xもしくは1、VM:0と診断された方。

### 研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したデータを使用します。このデータをもとに、デクスメトミジン併用の有無別の内視鏡治療成績および有害事象の比較、内視鏡治療中の「苦痛なし」に寄与する因子について統計学的に調査します。

### 使用する情報および個人情報の保護

患者さん個人番号（ID）と氏名が含まれていない状態で、電子カルテからデータを抽出します。また研究用パソコンは、インターネットにつなぎません。論文化から10年程度データを保存しますが、その後に適切にデータを破棄します。

#### 研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されま  
す。

#### 研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせくだ  
さい。

#### 個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

#### 研究責任者

下山 雅之 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 医師

#### 共同研究者

岩上 裕吉 消化器内科 副部長

赤松 拓司 消化器内科 部長

#### お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171（代表電話）

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通 4-20